

2019年7月10日

総務省政策評価審議会

子どもの視点から居場所の意味を考える —子どもの経験世界の変容とその問題—

駒澤大学 萩原建次郎

講師プロフィール

○専門：教育人間学、社会教育学

○研究テーマ

子ども若者の居場所と参画。社会構造の変化と子ども若者の人間形成。

○主な著書

単著 『居場所一生の回復と充溢のトポスー』 春風社、2018年

編著 『若者の居場所と参加ーユースワークが築く新たな社会ー』
東洋館出版、2012年

共著 『子ども・若者の自己形成空間ー教育人間学の視線からー』
東信堂、2011年

○社会的活動

いたばし子ども・若者支援ネットワーク会議世話人

おおた居場所づくり研究会発起人

世田谷区立野毛青少年交流センターー運営委員会委員

世田谷区社会教育委員の会議議長

神奈川県生涯学習審議会委員など

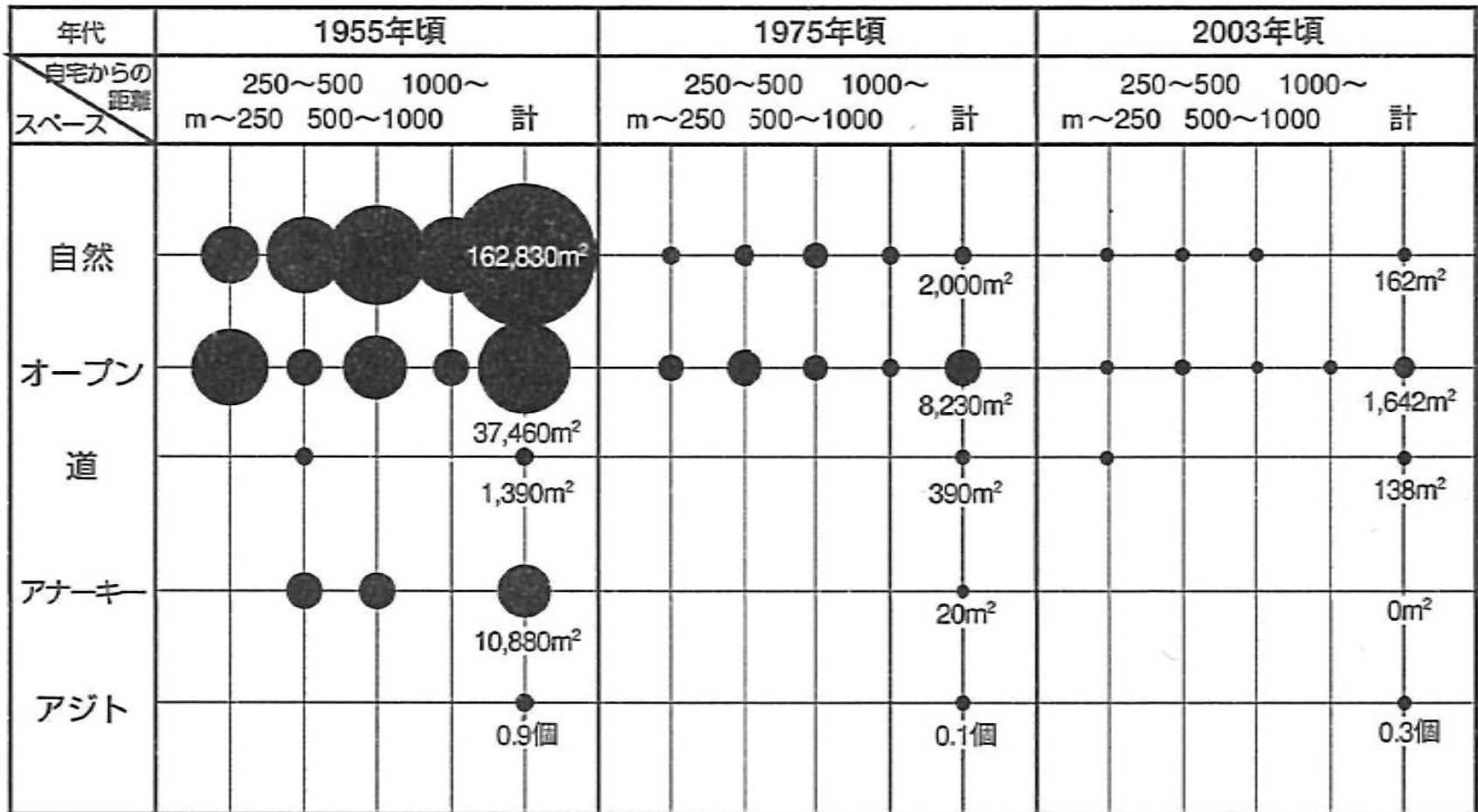
子どもが経験している「居場所のなさ」1

事例1

小学生の頃、私は毎日のように放課後は野球をやっていた。場所は近所の公園であったのだが、そこは住宅密集地に無理矢理作ったような小さな公園であった。ある日、いつものように野球をしていると、ボールが民家の敷地内に入ってしまった。そのようなことは日常茶飯事であり、近所の人が多めに見てくれていたが、「もうここで野球はするな」というお叱りをもらってしまった。

その日以来、その公園では実質野球ができなくなってしまった。しばらくして町内会も動き、花壇を作ったり、立札を立てることで、一層遊びにくくなってしまった。結果的に、私の居場所はなくなったに等しかった。学校の校庭では、野球どころか球技全てが禁止、他の公園や広場は近くにはなく、心にスッポリと穴があいてしまった気分だった。

都市・郊外における遊び空間量の変化



仙田満『こどものあそび環境』鹿島出版,2009年より

子どもの放課後の過ごし方の実態 ～神奈川県の子童12541人アンケートから～

調査対象 神奈川県33全市町村内の小学校71校の子童
数値は高学年（ ）内は低学年

1位 79% (77%)・・・自宅

2位 47% (45%)・・・塾や習い事

3位 43% (37%)・・・公園・空き地・広場など

「神奈川県における放課後の子どもの居場所づくりに向けた
実態調査研究調査報告書」(平成25年2月調査)より

放課後やってみたいこと ～神奈川県の子童12541人アンケートから～

- 1位 88% (89%)・・・友だちと一緒に遊ぶ
- 2位 71% (68%)・・・運動やスポーツをする
- 3位 57% (47%)・・・本やマンガを読む

前掲、報告書より

子どもが経験している「居場所のなさ」2

事例2

自転車で通りを走る時、歩道を走ると、歩行者から邪魔者扱いの視線が注がれる。かといって車道を走ると自動車から遠慮なくクラクションが鳴らされる。

その時僕はいつもこの自転車の置かれた状況は、中学生の時期に似ているなと考えたりする。

中学生には地域に遊び場という場はなかった。もちろんバイトもできないから金もないし、公園では小学生の保護者から冷たい視線。まるで違法駐輪の自転車のように、どこにも止める場所のない自転車のように、学校と家の間の社会に僕の居場所はなかった。それでも中学生には自転車しか乗る物がなかった。

子どもが経験している「居場所のなさ」3

事例3

中学生の時、不良と呼ばれてしまう友達が話していた言葉を思い出した。「別に何をやるわけでもないのに、どこにいてもなんでここにおると白い目で見られている気がする」。(中略)その言葉を聞いた当時の私が、その言葉に驚くのではなく、共感していたことも思いだした。

制服に包まれている限り、昼間いることを許される場所は学校しかないし、放課後もいることを許される場所は限られている。クラブ活動、塾、習い事、それ以外の場所にいる時は明確な理由が必要で、だから私たちは学校に、塾に、クラブ活動に、必死に居場所を求めていたのだらう。

制約される子ども・若者の居場所

		ケア・教育 ←		→ 文化・余暇・スポーツ・遊び場					
就学前 (3歳未満)	母親非就労	つどいの広場		(児童館)	地域子育て支援センター	社会教育施設 公民館 図書館 博物館 青少年教育施設 女性教育施設 社会体育施設 など	公園 広場 など	里山 森林地 海岸 川辺 など	道路 宅地 商業施設 産業施設 など
	母親就労	保育所							
就学前 (3歳以上)	母親非就労	幼稚園		児童館	地域子育て支援センター	社会教育施設 公民館 図書館 博物館 青少年教育施設 女性教育施設 社会体育施設 など	公園 広場 など	里山 森林地 海岸 川辺 など	道路 宅地 商業施設 産業施設 など
	母親就労	保育所							
小学生	母親非就労	小学校	放課後子ども教室	児童館	地域子育て支援センター	社会教育施設 公民館 図書館 博物館 青少年教育施設 女性教育施設 社会体育施設 など	公園 広場 など	里山 森林地 海岸 川辺 など	道路 宅地 商業施設 産業施設 など
	母親就労		放課後児童クラブ						
中学生		中学校							
高校生		高校							

放課後子どもプラン

地域子育て支援事業

空間のオープンスペース性
自然との親和性

低

高

北村安樹子『『空間』からみた子ども政策』p.39より
(第一生命経済研究所『Life Design Report』2008年所収)

児童・生徒の暴力行為発生率の推移

	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
小学校	0.5	0.7	0.9	1.0	1.0	1.0	1.2	1.6	1.7	2.6
中学校	8.5	10.2	11.9	12.1	12.0	10.9	10.7	11.3	10.1	9.5
高等学校	2.9	3.2	3.1	3.0	3.0	2.8	2.8	2.3	2.0	1.9
合計	3.1	3.7	4.2	4.3	4.3	4.0	4.1	4.3	4.0	4.2

文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」
(平成27年度)を元に作成

現代の子ども・若者が身を置く世界

成果目標達成
志向の世界

見える化志向
の世界

システムによる生
命世界の植民地化
(ハーバーマス)

機能性・有用性の世界

秩序・制度・機能・サービス
による交換可能な世界
成果主義と所有の世界

能力開発で構
成された世界

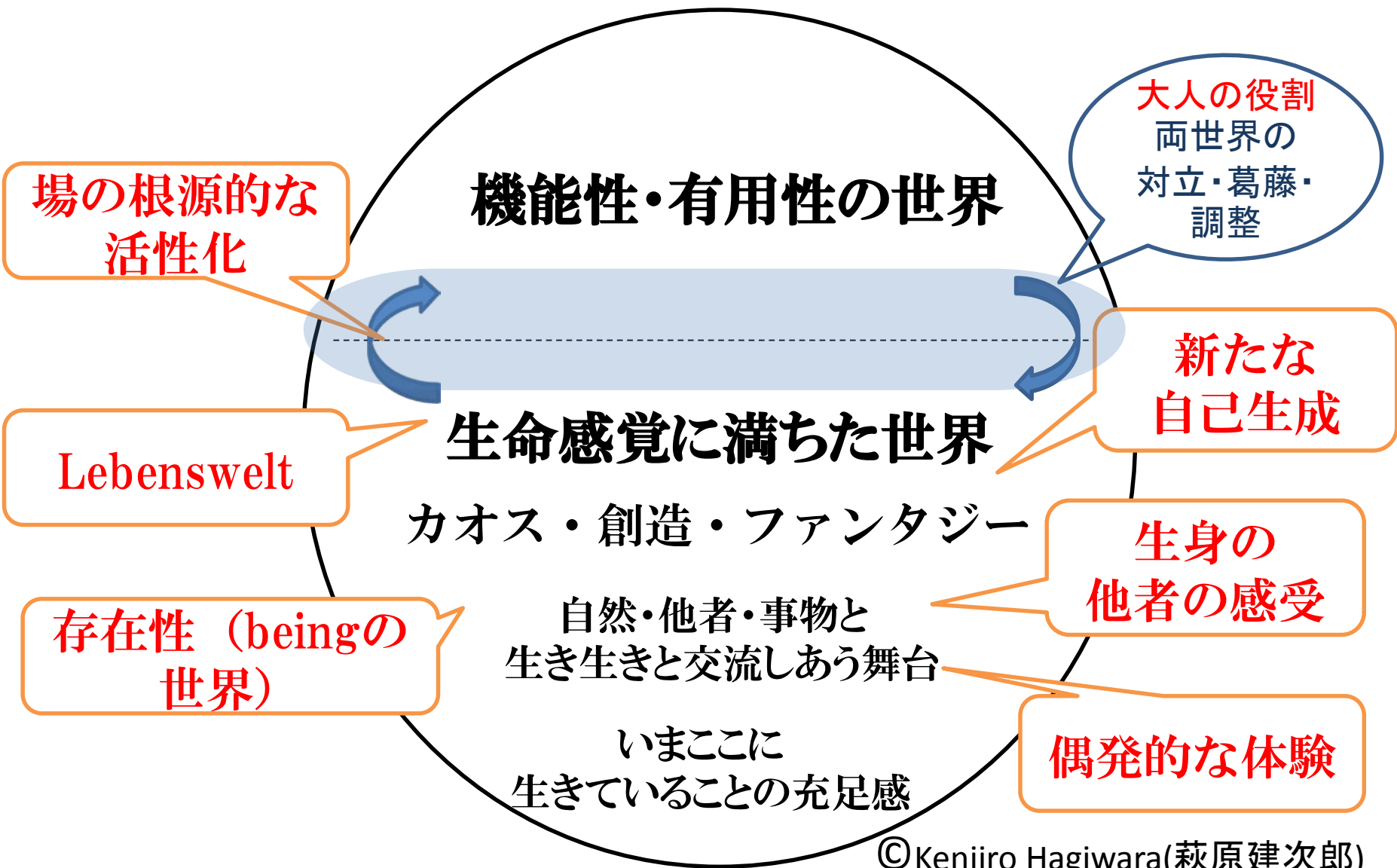
個体能力重視
の世界

仕組まれた体
験プログラム

外部評価
としての自己

生命性・存在性の世界

子ども・若者の存在欲求に寄り添う居場所の在りよう



©Kenjiro Hagiwara(萩原建次郎)

居場所とは何か

- 「居場所」は、本来子ども・若者の声なき声を聴き、彼／彼女らの痛みに寄り添うことから立ち上がってきたものである。
- それは、何度も挫折や失敗を繰り返し、傷ついてきた子どもや若者たちの受苦的経験にじっと耳を傾ける誰かが居てくれる場所である。
- それは、場にたたずみ、他者の声を聴き、共感共苦し、自ら探索し、冒険し、ここに生きている世界の意味を自らつかみとる、自己形成空間である。

萩原建次郎『居場所―一生の回復と充溢のトポス―』春風社、p.32

居場所の射程

- 「居場所」は、改めて人間があらゆる生命とのつながりのなかで生き、生かされているという事実に戻らせ、**生の全体性の回復にむけた様々な取り組み**へと自ずとつらなるものである。
- 演劇、音楽、アート、ケア、統合的な心身を回復するさまざまな試みから、子どもや若者、女性、高齢者、障がい者、社会的なマイノリティの視線からとらえなおすまちづくり、**包摂的で持続可能な社会づくりへとつらなるベースキャンプ**である。

萩原建次郎『居場所—生の回復と充溢のトポス—』春風社、p.32